

1.日時：2014 年 6 月 20 日（金） 15:00～17:00

2.場所：BCAO 日本橋事務所

3.進行：市川座長（レスキューナウ）

4.記録：大島（富士通マーケティング）

5.出席者（8 名：敬称略・順不同）

市川（レスキューナウ）、東根（建設環境研究所）、野田（アジア航測）、大島（富士通マーケティング）、高麗（富士通 FIP）、上倉（セノン）、副島（大林組）、南部（清水建設）

6.実施内容

(1)土砂災害避難時のアクションカード事例 山形県西川町志津の事例発表（紹介者：東根様）

- 避難時のアクションカードとは、土砂災害発生時における各担当者（西川町・町内会長・宿泊施設・避難所、住民を含む）の行動チェックシート。
- 山形県西川町志津は月山の麓にある町で、志津温泉が有名。以前より地すべりが多発している地域であり、現在も少しずつではあるが下流に向かって移動している。近年近隣においても地すべりによる集落の孤立も発生している。この地域で地すべりが発生した場合に、観光にも影響を与えるほか、大規模な地すべりが発生した場合に、最悪の場合は下流域に発生するであろう天然ダムの発生と決壊に伴う、さらに下流域にある高速道路やダム施設等への影響が懸念される。それを防止するために、国土交通省の「地すべり対策事業」の対象地域に指定されている。また、地すべりの予兆が発生した場合には、直ちに避難が必要である。
- 前年度（平成 24 年度）までに避難誘導計画（原案）は作成されていたが、作成されているのみで、役所や住民に対しても、周知・訓練は実施されていない状態であった。それ以降の工程を平成 25 年度の業務として受注した中で、避難誘導計画（原案）を検証する机上訓練とワークショップを実施。
- 机上訓練・ワークショップは、すべてのカテゴリを実施するには無理があるため、避難情報発令時の情報伝達部分を実施。
- アクションカード
 - ※徳島大学建設工学科地域防災研究室・中野晋教授が病院向けに作成した病院向けカードをベースに作成。
 - ・ 訓練にあたり避難誘導計画（原案）をベースにアクションカードを新たに作成。
 - ・ 発災時の実施事項（誰が、どの様な時に、どの様なタイミングで何を実施するかを記載）をタイムラインに並べたものである。
 - ・ 町役場用、町内会長用、宿泊施設用（ほとんどの住民は旅館を営んでいるため、住民用ななし）、リフト及び山小屋用、避難所用の 5 編で構成。
 - ・ A4 サイズ 1 枚（表裏で利用）で作成
- 机上訓練（20 名が参加。3 時間実施）
 - ・ 重要性の説明、訓練の流れ、役割確認、意見交換、おさらい、振返りの 6 項目を実施。
 - ※資料の説明会だけでは忘れがちなため、頭を動かすことで足りないものをイメージすることが重要と考えている。

- 机上訓練参加者からの意見及び、訓練に対しての感想
 - ・ 訓練では手順を確認したのみであるが、アクションカードがある事で行動が分かってよい。
 - ・ いざ避難するという場合に、観光客の把握が難しいという課題も見えた。
 - ・ 以前から必要性は感じていた。住民参加型での訓練は未実施であり、継続した訓練の重要性を改めて感じた。

＜事例発表での質疑応答＞

- このカードを実施する際には、○番までは1時間以内に行なうなど、時間目標があった方が良いのではないかと。※正常性バイアスを壊すためには、時間で壊すのが良いのではないかと。
- 発災の状況により、(例) パターン A でやる、(例) 今回はパターンイエローでやるなど、同じタイムラインでも急ぐのか、ゆっくりでよいか認識させる必要があるのではないかと。
- 役所向けアクションカードは、「○○時間で、雨量○○mmの場合の実施事項」など、閾値があると判断が遅れなくてよいのではないかと。また、閾値があれば新しい人が役所の担当となった場合でも、判断が後れることを防止できるのではないかと。

何分で行なうという時系列は、アクションカードの利用者が熟練していないため記載していなかったが、今後検討していきたい。(東根氏)

7.次回研究会

日時：平成 26 年 7 月 18 日 (金) 15:00～17:00

場所：BCAO 日本橋事務所

議題：・アクションカードの作成 (a1～a4(予定))

以 上